

大草谷津田いきものの里 自然観察会

春を待つ植物たち

遠藤登志子（千葉市）

日 時：2015年2月1日（日）10：30～12：00 天候：晴れ

参加者：大人12名 子ども3名

担当指導員：田井中信子・遠藤登志子

晴天ながら、立っているのにも我慢がある冷たい風が吹くなかでの集合でした。人間も待ち遠しい春です。植物はどのように春を待っているのかを、木々は冬芽、草はロゼットを中心に探っていくことを話し、さっそく日が当たって風も弱い駐車場脇の斜面でロゼットを探しました。ロゼットが地面にぴたりとついて、どの葉も日光を受けているのを見ながら、手を当てて地面の温かさを感じてもらいました。ハルジオンとタンポポのロゼット見ながら、成長した春の姿を植物カードで見ました。また、同種のロゼットでも大小がありましたが、小さい物は今春は花へと続く成長をせず、来春大きなロゼットになって花開くものもあることを話しました。この後、ハルジオン・オオアレチノギク・タンポポ・ノゲシ・ウラジロチチコグサなどのロゼットで根の生え方に違いがあるかどうかを観察しました。

林縁のクワの枝にクワコの卵が産みつけられているので、空の繭とともに紹介し、11月の観察会の日に羽化したという成虫の写真も見てもらいましたが、クワコを知らない方々もいたのでカイコの野生種であることなどを話し、観察路を進むと、林の内はより寒く、日射しが乏しいためロゼットは少なく、アオキやヤツデが目立ちます。めじろんばを左へ折れた所で、イノコヅチの根もとの落ち葉をかき分けて少し掘ると、根の脇に小さい白い芽がいくつも用意されていました。

田んぼへ続く陽当たりのいい道を歩いて、トックリバチの巣、タケカレハの空繭を観察。田んぼではニホンアカガエルの卵塊をいくつも見る事ができました。よく観察会に参加している男の子たちは丸太の下にコガネムシの仲間の幼虫を発見し、目を輝かせていました。

陽だまりに、用意した冬芽を拵げて、違いを較べました。ムラサキシキブ・コブシ・イヌシデ・サンショウや混芽のニワトコ・アジサイ（頂芽）はカッターで切って内部観察をしました。

今日の感想は、①冬芽は春を待っていると感じた。②イノコヅチの小さな芽が一番印象的だった。③日なたと日陰の温度差に驚いた。④4ロゼットがおもしろかった。などをあげてくれました。



クズの葉痕



ニワトコの
葉痕と冬芽